

P-B-4

看護大学における補完代替医療教育の現状と取り組み

The curriculum about CAM in College of Nursing

鈴木けい子¹⁾，高橋 研一²⁾，吉備 登³⁾

1) 大阪市立大学医学部看護学科研究員，2) 北里大学大学院，3) 関西医療大学

In 2005, we send the letter of request of the questionnaires about CAM in curriculum. From the analysis of the replies from 44 of 128 colleges of nursing, it was elucidated that these colleges offered the subjects of aroma therapy, massage, Chinese herbs and music therapy. It was demonstrated that the students of Osaka City University of nursing were very interested in CAM (massage, aroma, acupuncture), indicating the necessity of introduction of CAM to the nursing field.

【目的】

看護領域における補完代替医療（CAM）に関連する論文が、年々増加傾向にあり、関心の高さが伺えるが、看護師養成教育機関において、代替医療に関する教育がどのように実施されているかに関する報告は少ない。今回、全国の看護大学における代替医療に関するカリキュラムの実態調査の結果とともに、大阪市立大学医学部看護学科において「代替医療と看護」という講義科目で教育をする機会をえたので、その取り組みの結果とそこで提起された今後の代替医療教育の問題点を明らかにする。

【方法】

文部科学省科学研究補助金により基礎研究「医療系学生の代替医療に関する意識調査からの教育改革」に基づき、代替医療に関するカリキュラムの調査を行った。2005年9月、全国の看護大学128校に対して郵送でアンケート調査の協力を依頼した。44校（34.3%）から回答をえた。講義は大阪市立大学医学部看護学科において15時間行った。

【結果】

代替医療に関する科目を開講しているのは44校中16校（33.4%）であった。「東洋医学」「補完代替医療」「和漢薬入門」などの科目が設定されていた。具体的な講義内容としては「アロマセラピー」「按摩」「漢方薬」「音楽療法」などでこれは学生の希望している講義と一致していた。

講義には実技も取り入れ7コマを実施した。ほとんどの学生がリラックスでき、心理的な効果があると実感したが、「実際に患者にCAMを適用できるかどうかについて吟味しなければならない」、「正しい知識と実践していくための科学的な検証が必要」などというアンケート結果が得られた。

【結論】

アンケート結果から代替医療に関する科目を開講している学校は少なかったが、関心の高さは推察しえた。CAMに対する看護学生の高い関心度から、医療現場での看護介入の1手段として可能な範囲で定着させるためにも、CAMを教育課程に導入していく必要性が示唆された。